

科目ナンバリング		G-LAS10 80029 LE43							
授業科目名 <英訳>	開発経済学（政策と制度） Development Economics (Policy and Institutions)				担当者所属 職名・氏名	総合生存学館 教授 IALNAZOV, Dimitar Savov			
群	大学院横断教育科目群		分野(分類)	人文社会科学系			使用言語	英語	
旧群		単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）		
開講年度・ 開講期	2025・後期		曜時限	金2		配当学年	大学院生	対象学生	全学向
(総合生存学館の学生は、全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。)									
【授業の概要・目的】									
<p>この授業の目的は、持続可能な開発やグリーン・エコノミーの視点から、従来の開発経済学を再考することである。従来の開発経済学は、経済成長や経済開発を重視し、その過程で生じる環境問題や社会経済格差の問題を、開発の次の段階で解決すべき課題として後回しにしてきた。しかし、持続可能な開発目標（SDGs）の達成が世界的に求められる現在、新興国や発展途上国における経済開発の促進だけでなく、環境問題や社会経済格差の解決も同時に進める必要がある。</p> <p>また、本授業では、経済開発を支える政策や制度に対する従来の開発経済学の考え方を見直すことも重要なテーマとする。1990年代以降、多くの新興国や発展途上国で新自由主義的な政策や制度改革が実施されたが、多くのケースで期待された成果を上げることができなかった。一方で、中国の経済開発の成功をきっかけに、新自由主義とは異なる開発モデルを模索する国が増えている。今後、新興国や発展途上国において、どのような政策や制度が持続可能な経済発展につながるのか、受講生とともに議論しながら考えていきたい。</p> <p>この授業は対話形式で行うため、受講生による積極的な授業参加が求められている。また、開発経済学や持続可能な開発の理論だけではなく、現実世界で起きている事象分析や実践的な解決策も取り上げる。</p>									
【到達目標】									
<ol style="list-style-type: none"> 1. 従来の開発経済学、および経済開発をもたらす政策や制度に対する従来の考え方を批判的に評価できる能力を習得できる。 2. 各受講生に一つの新興国または発展途上国を選んでもらい、その国における経済開発、政策や制度についてのケース・スタディーを作成してもらうために、受講生は様々な国における経済開発、政策や制度を比較する能力を習得できる。 3. この授業は英語で行うために、受講生は自身の英語コミュニケーション能力やディスカッション能力を向上させることができる。 									
【授業計画と内容】									
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 各受講生に自らのケース・スタディーの対象となる新興国または発展途上国を選んでもらう。 2. 開発、経済開発と持続可能な開発。国の開発水準の測定に使われる指標。先進国、新興国、及び発展途上国の比較 3. 国の経済開発成功の原因 -- 人的資本 (human capital)と人間開発指数 (HDI) 4. 国の経済開発成功の原因 -- 政策（産業政策を含む）や制度 5. 経済開発の成功事例と失敗事例（国のケース・スタディー） 6. 経済開発理論 I（Rosenstein-Rodan, Lewis, Rostowを中心に） 7. 経済開発理論 II（従属理論、新古典派経済学、新成長理論を中心に） 									
開発経済学（政策と制度）(2)へ続く									

開発経済学（政策と制度）(2)

8. 受講生による中間発表

9. 新自由主義モデル（Washington Consensus）下の政策や制度

10. 中国の経済開発モデル下の政策や制度

11. 政治体制類型と経済開発Ⅰ（独裁や権威主義）

12. 政治体制類型と経済開発Ⅱ（民主主義）

13. 持続可能な開発、またはグリーン開発モデルとは何か

14. グリーンな産業政策について

15. 受講生による期末発表

【履修要件】

英語である程度コミュニケーションできる能力、及び英語で書かれた学術的な文書を読解する能力が必要である。なお、経済学の基礎知識がなくても履修は可能である。

【成績評価の方法・観点】

以下の基準により成績評価を行う。

1. 授業参加*: 成績の50%

* 授業参加の評価には、次の三つが含まれる。(1) 出席、(2) 与えられた課題についての授業中の発表、(3) 授業中の討論への参加。

2. 期末レポート*: 成績の50%

* 期末レポートの評価には、次の三つが含まれる。(1) 中間発表、(2) 期末発表、(3) 期末レポート（期末報告は、期末レポートのテーマについて学生が学期の最後の授業で口頭でプレゼンテーションを行うもの。その後、試験期間中に執筆した期末レポートを提出すること。）

詳細は初回授業で説明する。

【教科書】

Todaro, M. and S. Smith 『Economic Development (thirteenth edition)』 (Pearson, 2020.)

【参考書等】

(参考書)

Sachs J. 『The Age of Sustainable Development』 (Columbia Univ. Press, 2015.)

(関連URL)

<https://www.gsais.kyoto-u.ac.jp/staff/inalnazov/>

【授業外学修（予習・復習）等】

授業前に予習すべき内容について説明する。

【その他（オフィスアワー等）】

面談を希望する学生は、(1) 名前、学籍番号、所属、(2) 可能な面談日時（第3希望まで）を書いてメールをください。メールアドレスは以下の通りである。

<ialnazov.dimitersavov.8w@kyoto-u.ac.jp>

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

開発経済学（政策と制度）(3)

[主要授業科目（学部・学科名）]